

A工区地質記載シート

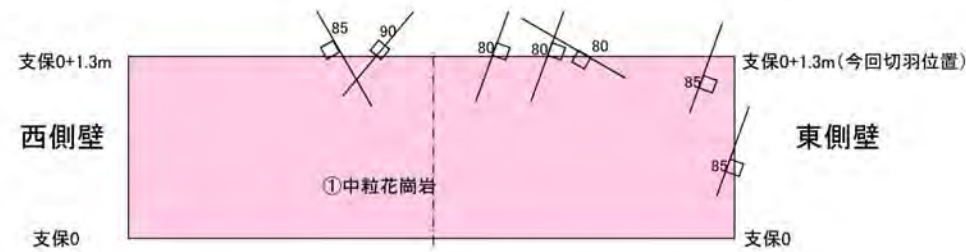
A2-請負-計測工(地質)-070724

シート番号	避難坑01	日時	平成19年7月24日 12:00~13:00	位置・深度	避難坑01 G.L. 197.0 m~G.L. 200.2 m	観察・撮影者	
-------	-------	----	---------------------------	-------	------------------------------------	--------	--

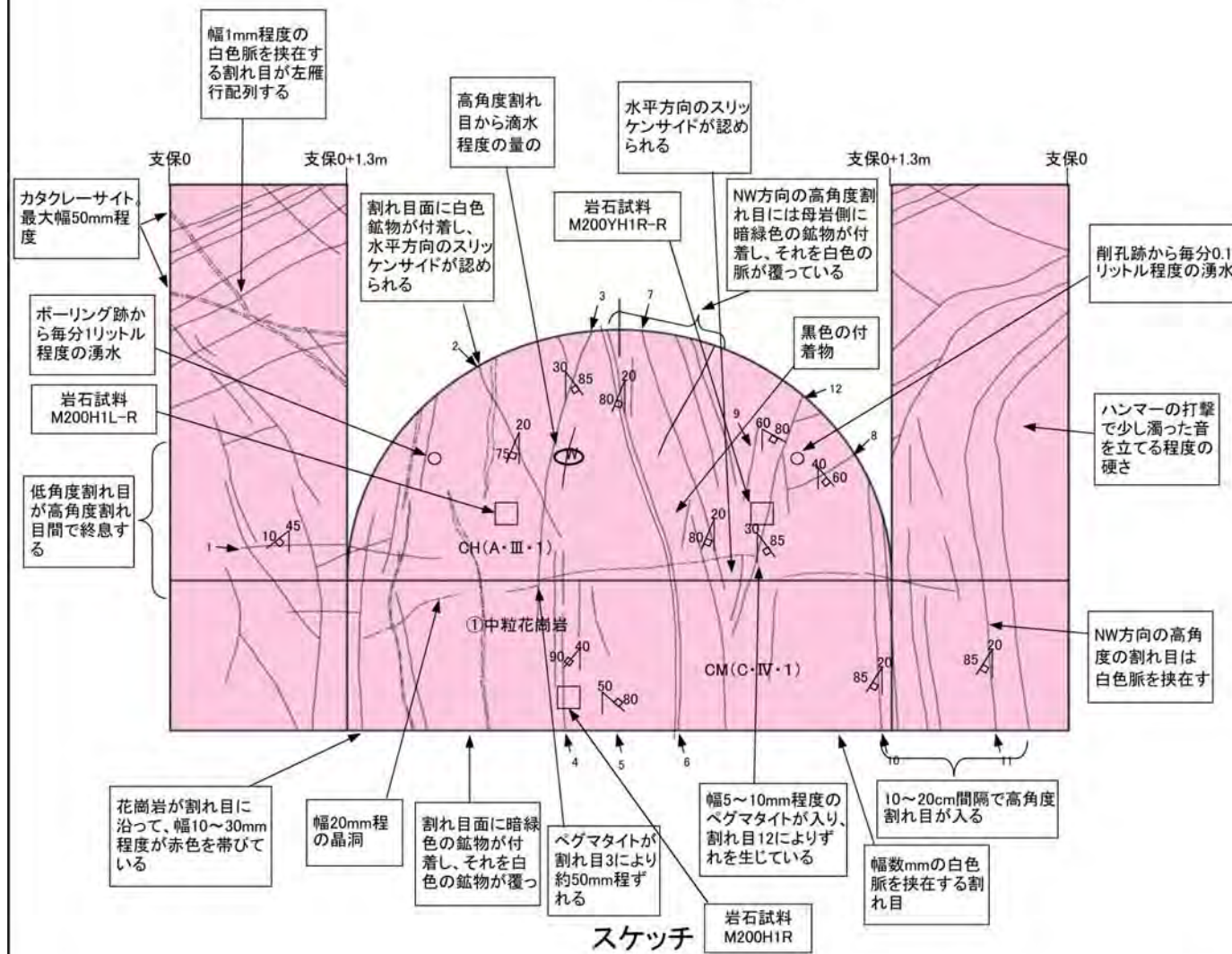
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

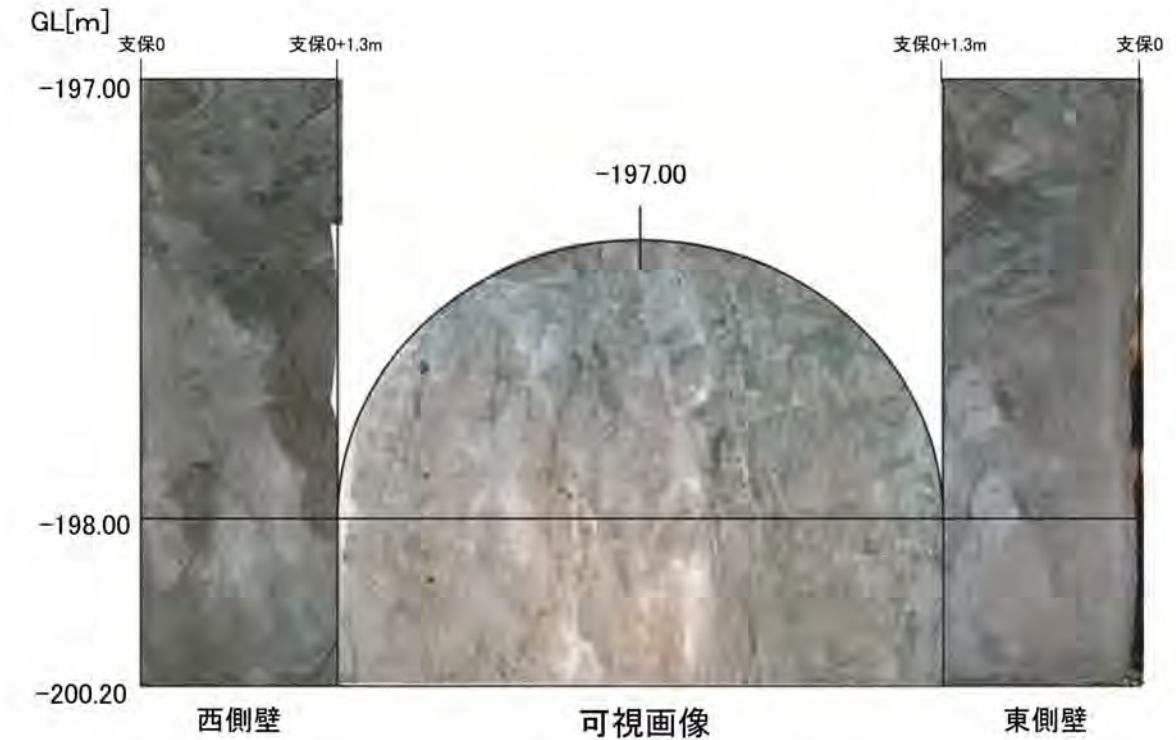
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 脈 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



スケッチ



0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -197m~198.5m CH/CM G.L. -198.5m~200.2m CH/CM
岩相	①中粒花崗岩(淡桃色) ②カタクレーサイト	RMR値	G.L. -197m~198.5m 64 G.L. -198.5m~200.2m 61
風化	α	岩石試料番号	M200H1R, M200H1L-R, M200H1R-R
変質	2~3	採水試料番号	無
湧水	滴水程度	化石	無

特記事項

当箇所は予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~5mm程度の中粒花崗岩とカタクレーサイトである。割れ目6より左側の切羽の花崗岩は、高角度割れ目に沿って幅10~30mm程度が赤色を帯びていることから、変質の程度は2~3と評価した。割れ目はNW-SE方向とE-W方向の高角度の割れ目と、高角度割れ目間で終息する低角度割れ目が認められる。高角度割れ目のNW-SE方向のものうち、割れ目6から右側では割れ目が10~20cm間隔で入り、割れ目に暗緑色脈を挟みそれを厚さ1~2mm程度の白色の脈が覆っている。割れ目3等のE-W方向の高角度割れ目の割れ目面には暗緑色の鉱物が付着している。割れ目2には水平方向のスリッケンサイドが認められた。

スプリングラインの高さに幅最大20mm程度の晶洞を伴う幅数~10mm程度のペグマタイト脈が認められ、E-W方向の高角度な割れ目3で50mm程度の割れ目12で100mm程度のずれを生じている。切羽左側には最大幅50mm程度のカタクレーサイトが認められた。カタクレーサイトの走向は概ねE-W方向で高角度に入っている。湧水は削孔跡から毎分0.1~1リットル程度の湧水が認められたほか、切羽中央の高角度割れ目より滴水程度の量が認められた。岩相区分は、割れ目6から左側は全体に割れ目が少なく概ね50~100cm間隔で、ハンマーの打撃で火花が散る程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)と評価した。割れ目6から右側は割れ目が多い箇所10~20cm間隔で入り、ハンマーの打撃で少し濁った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)と評価した。

A工区地質記載シート

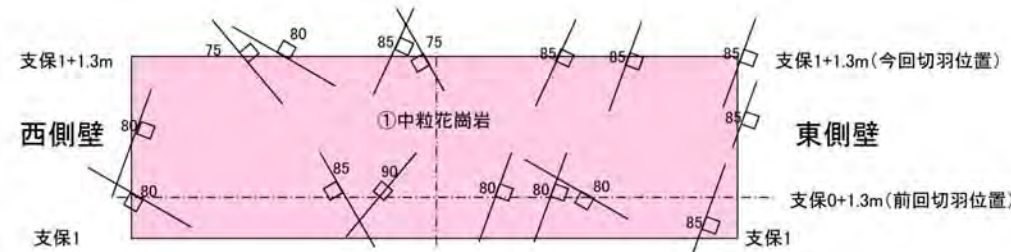
A2-請負-計測工(地質)-070725

シート番号	避難坑02	日時	平成19年7月25日 17:00~18:00	位置・深度	避難坑02 G.L. 197.0 m~G.L. 200.2 m	観察・撮影者	
-------	-------	----	---------------------------	-------	------------------------------------	--------	--

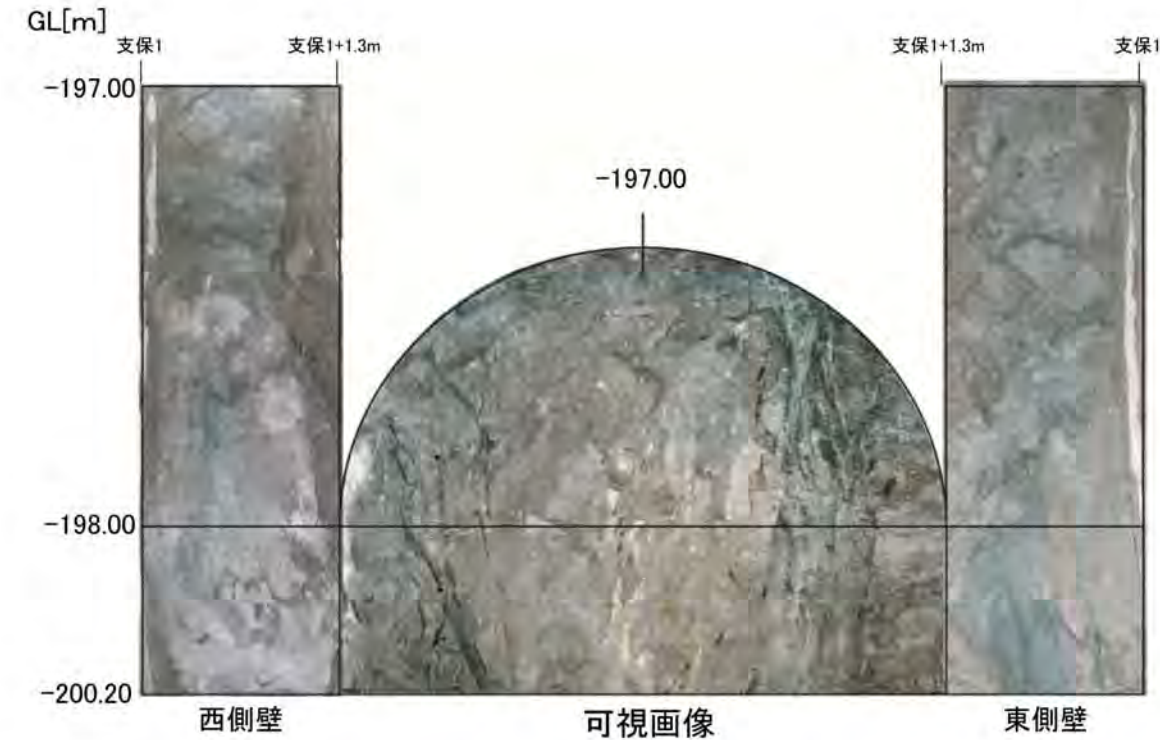
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

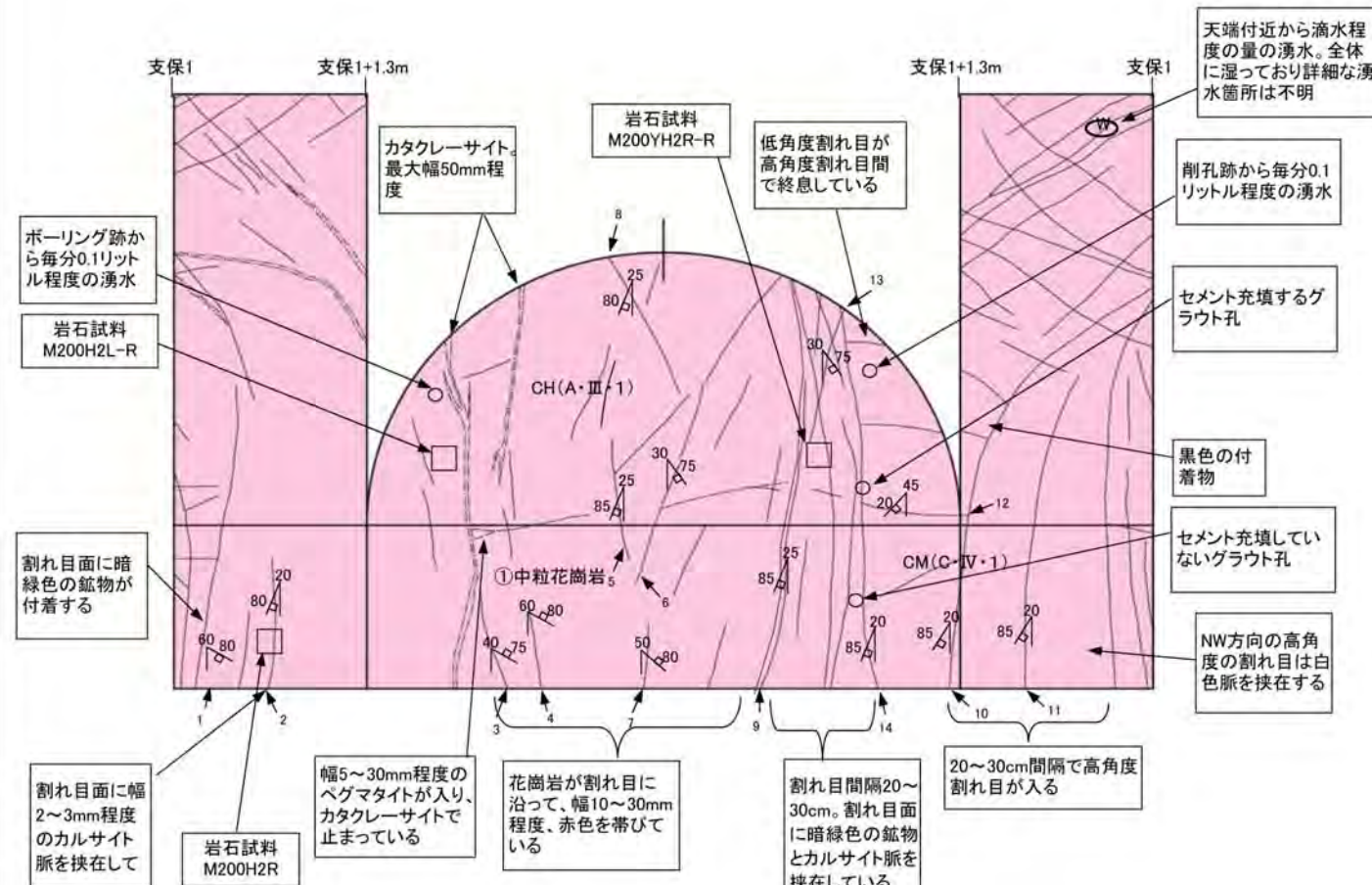
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 脈 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



0 1 2m



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -197m~198.5m CH/CM
			G.L. -198.5m~200.2m CH/CM
岩相	①中粒花崗岩(淡桃色) ②カタクレーサイト	RMR値	G.L. -197m~198.5m 64
			G.L. -198.5m~200.2m 64
風化	α	岩石試料番号	M200H2R, M200H2L-R, M200H2R-R
変質	2~3	採水試料番号	無
湧水	滴水程度	化石	無

特記事項

当箇所は予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~5mm程度の中粒花崗岩とカタクレーサイトである。割れ目9より左側の切羽の花崗岩は割れ目によって幅10~30mm程度が赤色を帯びている。また、割れ目9から切羽右側と西側壁付近の花崗岩は淡緑色を帯びており、変質の程度は2~3と評価した。割れ目はNW-SE方向とNE-SW方向の高角度の割れ目と、切羽右側から東側壁にかけて高角度割れ目間で終息する低角度割れ目が認められる。割れ目9から割れ目14の間ではNW-SE方向の高角度な割れ目が20~30cm間隔で入り、割れ目に暗緑色脈と厚さ1~2mm程度のカルサイト脈を挟んでいる。割れ目1等のNE-SW方向の高角度割れ目の割れ目面は暗緑色の鉱物を挟んでいる。

スプリングライン上部の高さに幅最大30mm程度のベグマタイトが認められ、切羽左側のカタクレーサイトで止まっている。切羽左側には目立つもので2条の最大幅50mm程度のカタクレーサイトが認められた。カタクレーサイトの走向は概ねE-W方向で高角度に入っている。湧水は削孔跡から毎分0.1リットル程度の湧水が認められたほか、天端付近より滴水程度の量が認められた。岩級区分は、割れ目9から左側は全体に割れ目が少なく概ね50~100cm間隔で、ハンマーの打撃で火花が散る程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)と評価した。割れ目9から割れ目14間、割れ目10から右側は割れ目が多い箇所であることからCM(C・Ⅳ・1)と評価した。

A工区地質記載シート

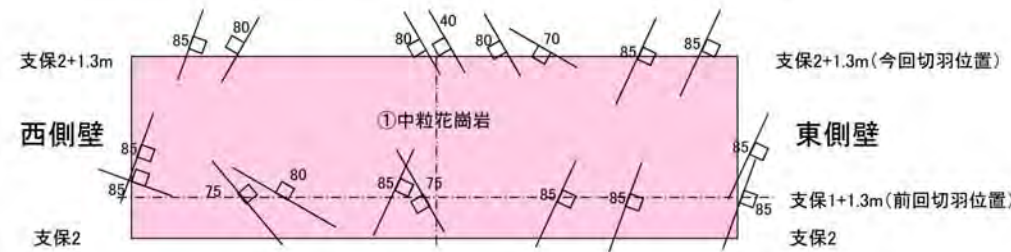
A2-請負-計測工(地質)-070727

シート番号	避難坑03	日時	平成19年7月27日 17:00~18:00	位置・深度	避難坑03 G.L. 197.0 m~G.L. 200.2 m	観察・撮影者	
-------	-------	----	---------------------------	-------	------------------------------------	--------	--

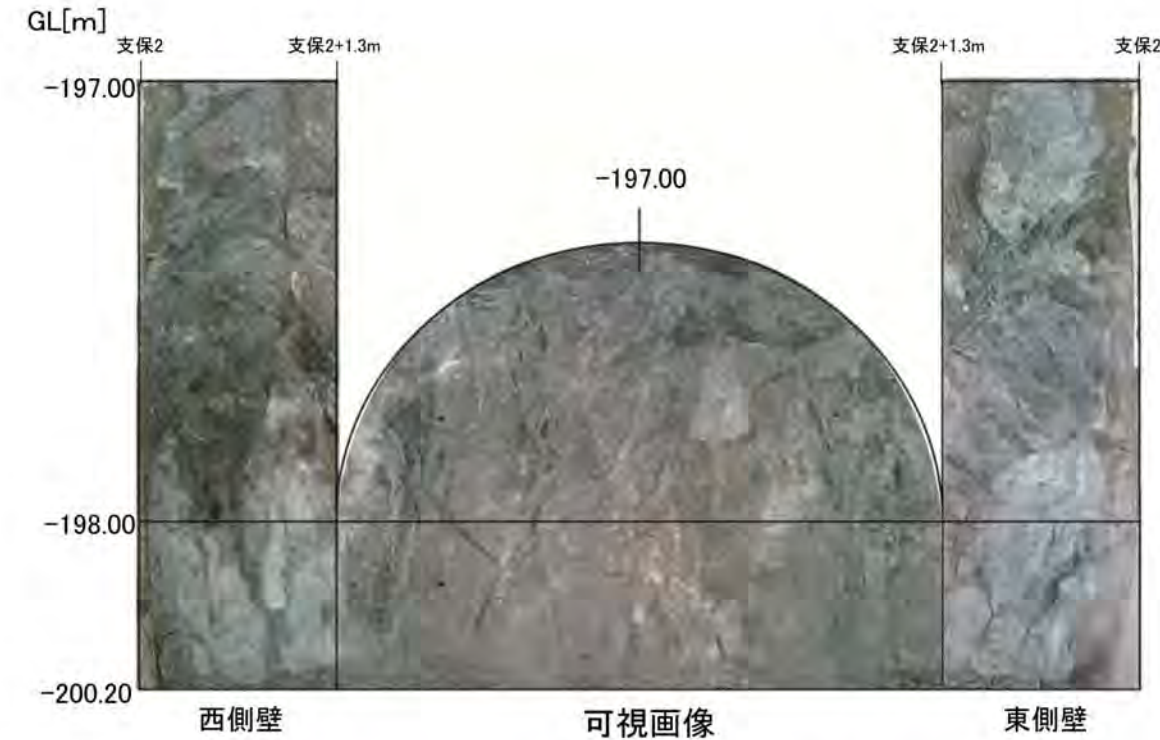
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

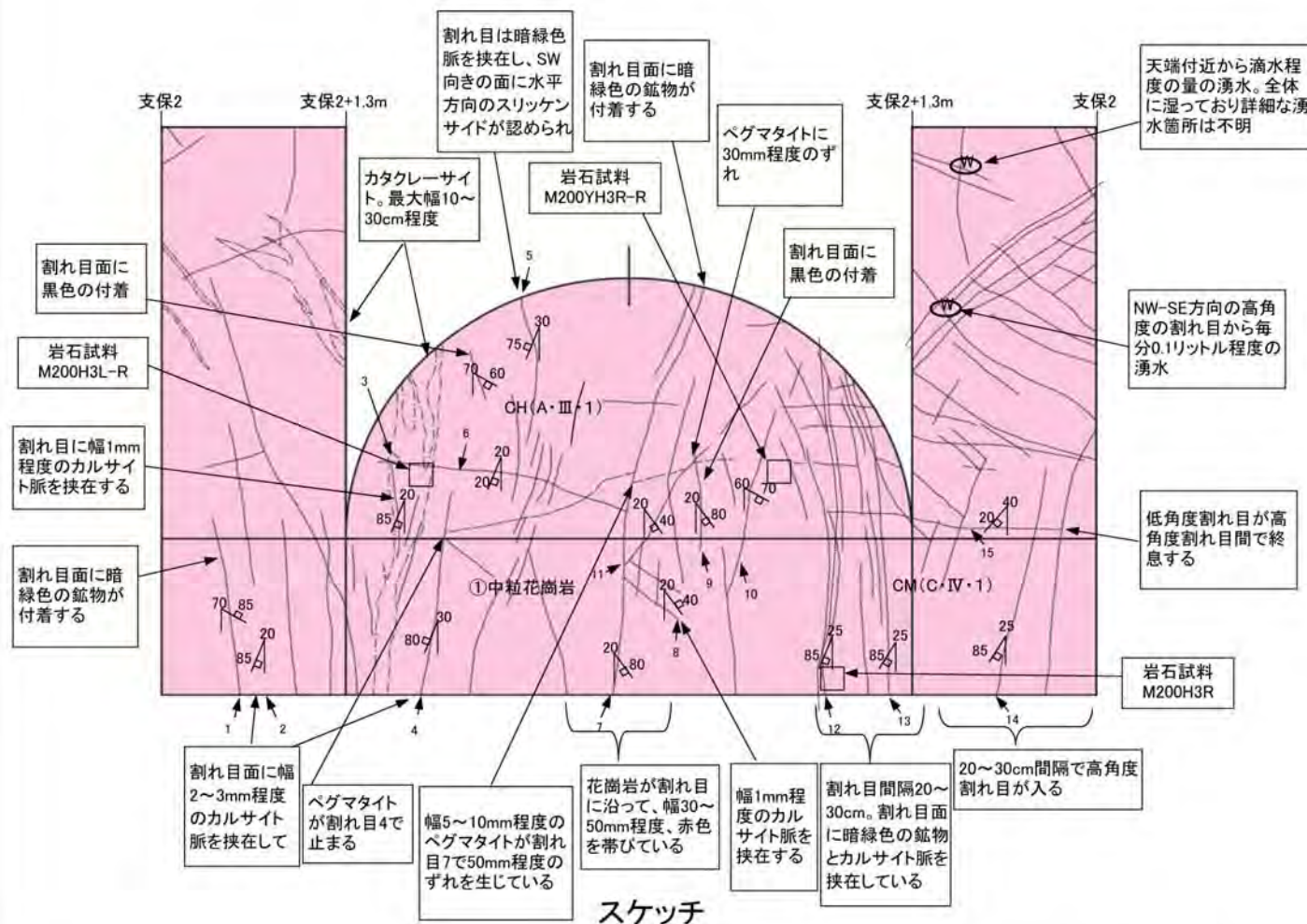
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 脈 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



0 1 2m



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -197m~198.5m CH/CM G.L. -198.5m~200.2m CH/CM
岩相	①中粒花崗岩(淡桃色、暗緑色) ②カタクレーサイト	RMR値	G.L. -197m~198.5m 58 G.L. -198.5m~200.2m 64
風化	α	岩石試料番号	M200H3R(花崗岩、暗緑色), M200H3L-R, M200H3R-R
変質	2~3	採水試料番号	無
湧水	毎分0.1リットル程度	化石	無

特記事項

当箇所は予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~5mm程度の中粒花崗岩とカタクレーサイトである。割れ目7付近の花崗岩は割れ目によって幅30~50mm程度が赤色を帯びている。また、割れ目12から切羽右側と西側壁付近の花崗岩は暗緑色を帯びており、変質の程度は2~3と評価した。割れ目はNW-SE方向とNE-SW方向の高角度の割れ目と、切羽中央から西側壁までと切羽右側から東側壁まで高角度割れ目間で終息する低角度割れ目が認められる。割れ目12から割れ目13の間ではNW-SE方向の高角度な割れ目が20~30cm間隔で入り、割れ目に暗緑色脈と厚さ1~2mm程度のカルサイト脈を挟み込んでいる。

前回の観察に引き続き、スプリングラインより上の高さに幅最大30mm程度のベグマタイトが認められ、割れ目7と割れ目11でずれを生じている。切羽左側には前回の観察に引き続き、最大幅30cm程度のカタクレーサイトが認められた。カタクレーサイトの走向は概ねE-W方向で高角度に入っている。湧水は割れ目から毎分0.1リットル程度の湧水が認められたほか、天端付近より滴水程度の量が認められた。岩種区分は、割れ目12から左側の切羽は全体に割れ目が少なく概ね50~100cm間隔で、ハンマーの打撃で火花が散る程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)と評価した。割れ目12から右側の切羽は割れ目が多い箇所では20~30cm間隔で入り、ハンマーの打撃で少し濁った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)と評価した。

A工区地質記載シート

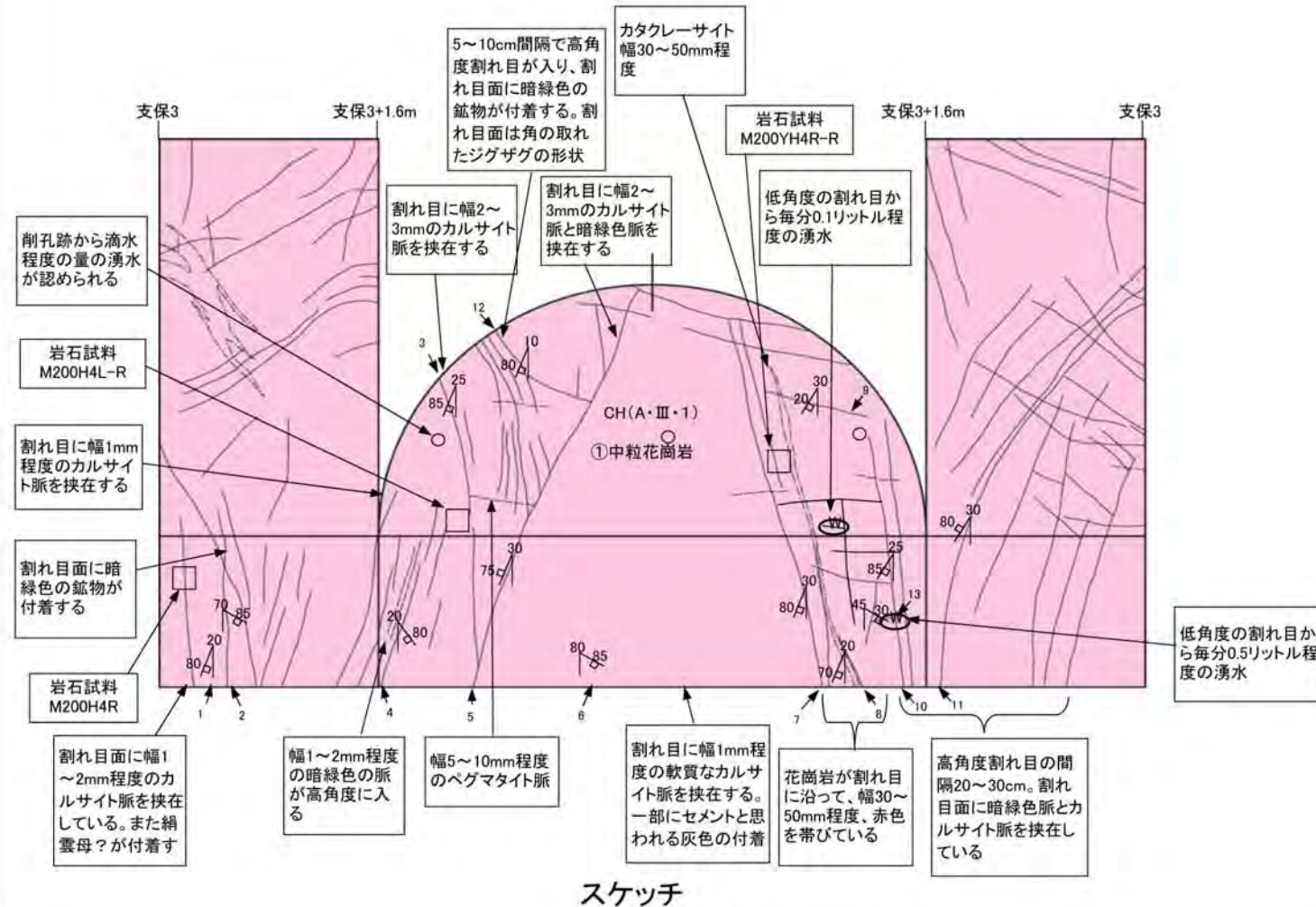
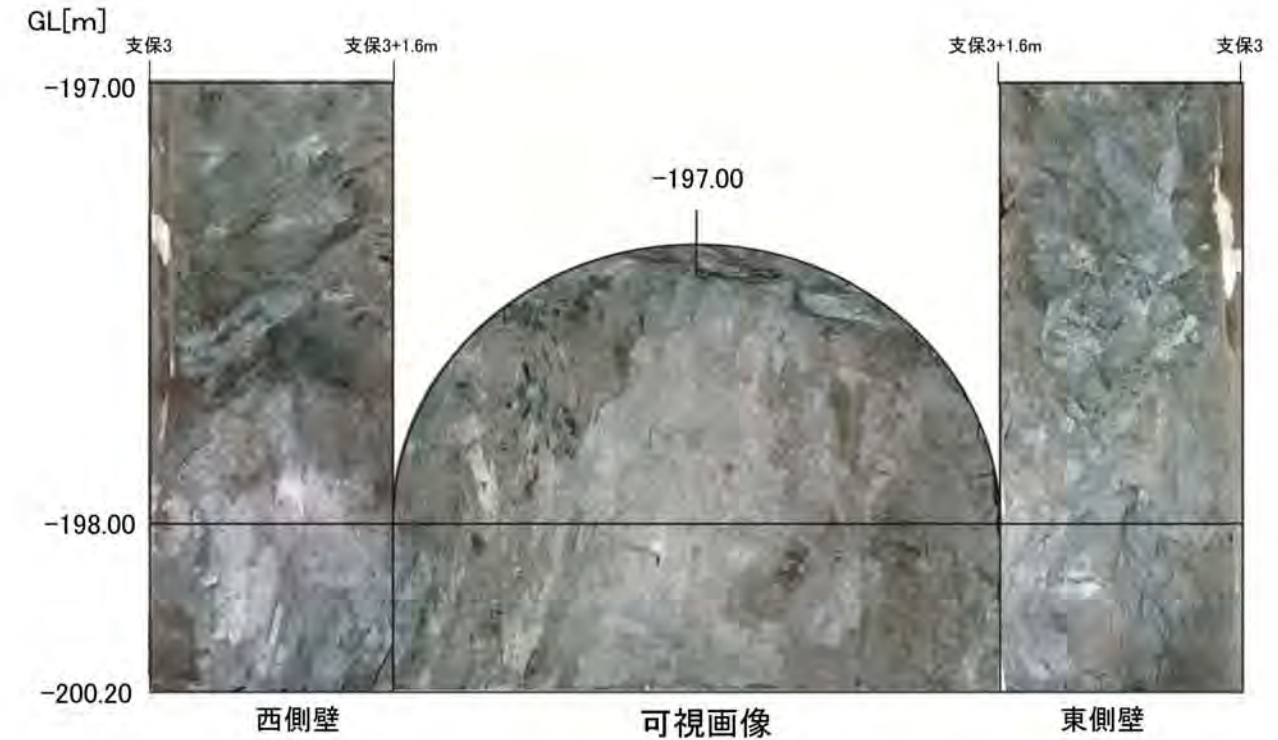
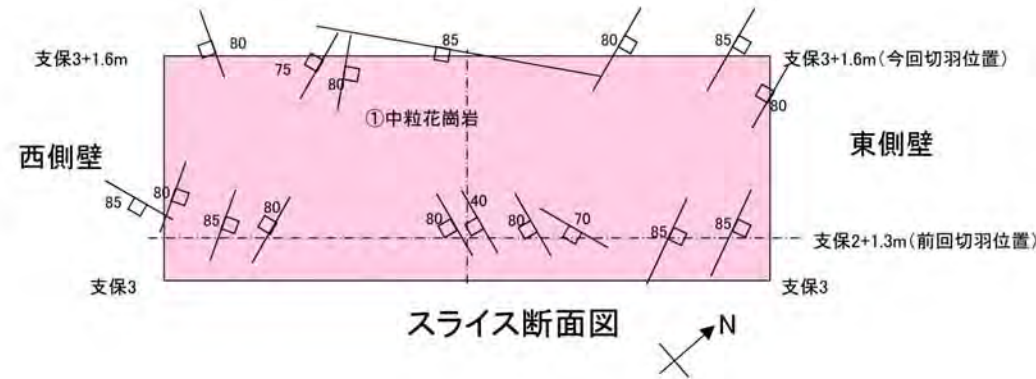
A2-請負-計測工(地質)-070731

シート番号	避難坑04	日時	平成19年7月31日 12:00~13:00	位置・深度	避難坑04 G.L. 197.0 m~G.L. 200.2 m	観察・撮影者	
-------	-------	----	---------------------------	-------	------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 脈 割れ目の走向傾斜



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -197m~198.5m CH G.L. -198.5m~200.2m CH
岩相	①中粒花崗岩(淡桃色) ②カタクレーサイト	RMR値	G.L. -197m~198.5m 63 G.L. -198.5m~200.2m 63
風化	α	岩石試料番号	M200H4R(花崗岩), M200H4L-R, M200H4R-R
変質	2~3	採水試料番号	無
湧水	最大毎分0.5リットル程度	化石	無

特記事項

当箇所は予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~5mm程度の中粒花崗岩とカタクレーサイトである。割れ目8付近の花崗岩は割れ目に沿って幅30~50mm程度が赤色を帯びており、変質の程度は2~3と評価した。割れ目はNW-SE方向とNE-SW方向の高角度の割れ目と、切羽に平行な軟質なカルサイトを挟在する高角度の割れ目6が認められた。割れ目10から割れ目11の間では高角度な割れ目が20~30cm間隔で入り、割れ目10から割れ目11にかけてNE傾斜からSW傾斜に変化し、くさび状となっている。この割れ目には暗緑色脈と厚さ1~2mm程度のカルサイト脈を挟在している。

前回の観察に引き続き、スプリングラインより上の高さに幅最大10mm程度のペグマタイトが認められた。切羽中央では割れ目面を覆うカルサイト脈によりペグマタイトの分布は不明である。切羽中央から右にかけてNE傾斜で最大幅30cm程度のカタクレーサイトが認められた。カタクレーサイトの走向は概ねE-W方向で高角度に入っている。湧水は割れ目10で止まる低角度割れ目13から毎分0.5リットル程度の量が認められた。他に切羽右側の低角度割れ目から毎分0.1リットル程度、切羽左側の岩層区分は、割れ目12付近や割れ目10から割れ目11までの間でやや割れ目が多いものの、全体としては割れ目は概ね30~50cm間隔で、ハンマーの打撃で火花が散る程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)と評価した。

A工区地質記載シート

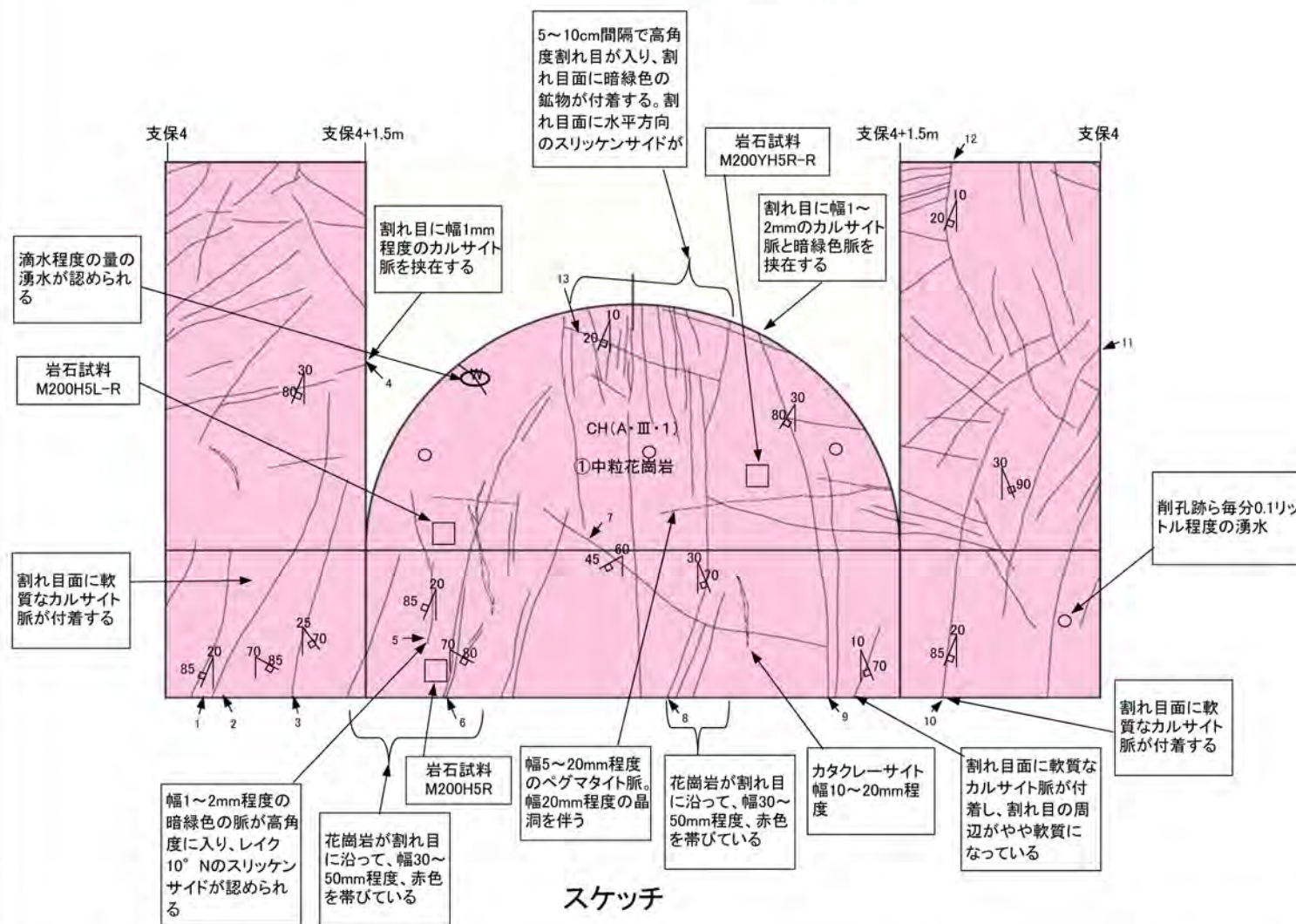
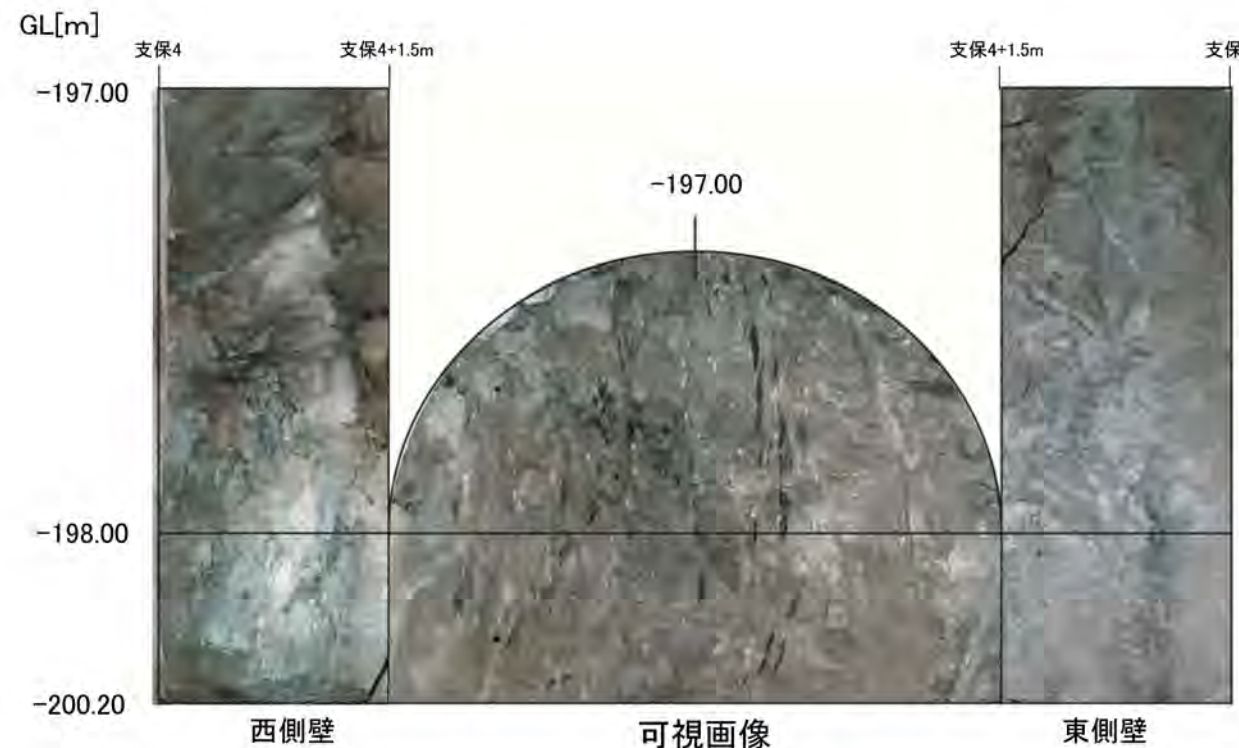
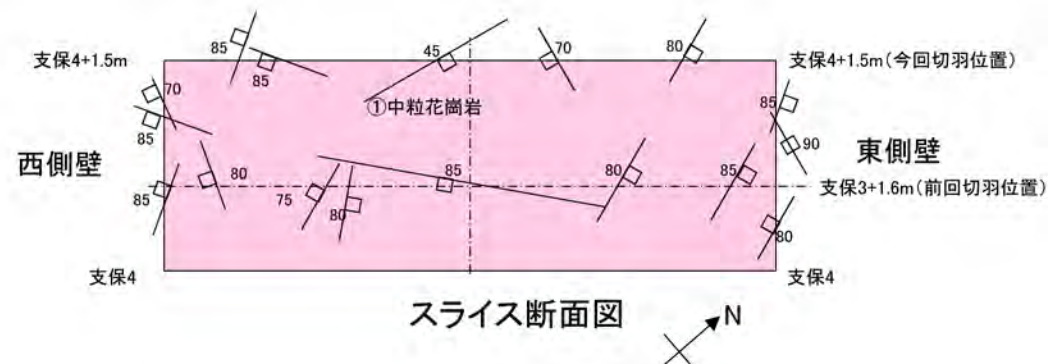
A2-請負-計測工(地質)-070801

シート番号	避難坑05	日時	平成19年8月1日 12:00~13:00	位置・深度	避難坑05 G.L. 197.0 m~G.L. 200.2 m	観察・撮影者	
-------	-------	----	--------------------------	-------	------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 脈 割れ目の走向傾斜



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -197m~198.5m G.L. -198.5m~200.2m	CH CH
岩相	①中粒花崗岩 (淡桃色) ②カタクレーサイト	RMR値	G.L. -197m~198.5m G.L. -198.5m~200.2m	66 66
風化	α	岩石試料番号	M200H5R (花崗岩), M200H5L-R, M200H5R-R	
変質	2~3	採水試料番号	無	
湧水	最大毎分0.1リットル程度	化石	無	

特記事項

当箇所は予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~5mm程度の中粒花崗岩とカタクレーサイトである。割れ目6と割れ目8付近の花崗岩は割れ目に沿って幅30~50mm程度が赤色を帯びていることから、変質の程度は2~3と評価した。割れ目はNW-SE方向とNE-SW方向の高角度の割れ目と切羽上部から天端にかけて20~30cm間隔のNE傾斜の低角度な割れ目が認められた。切羽中央には水平方向のスリッケンサイドを伴う暗緑色の鉱物を挟むNW-SE方向の割れ目が認められ、この割れ目は天端付近において低角度な割れ目12により止まっている。切羽中央には45°東傾斜の割れ目7が認められ、これは高角度でNE傾斜の割れ目9で止まっている。

前回の観察に引き続き、スプリングラインより上の高さに幅最大20mm程度のベグマタイトが認められた。切羽中央付近では幅20mm程度の晶洞を伴っている。切羽の左右にNE傾斜で最大幅10mm程度のカタクレーサイトが認められた。前回の観察と比較して、カタクレーサイトの切羽への露出は小さくなっている。湧水は東側壁の削孔跡から毎分0.1リットル程度認められ、切羽左側の天端近くの低角度割れ目からは滴水程度の量が認められた。岩相区分は、切羽の上部でやや割れ目が多いものの、全体としては割れ目は概ね30~50cm間隔で入り、ハンマーの打撃で火花が散る程度の硬さであることからCH (A・Ⅲ・1) と評価した。観察時にフェノールフタレイン液を塗布したところ、割れ目9から割れ目10の間で液が赤色に変色した。

A工区地質記載シート

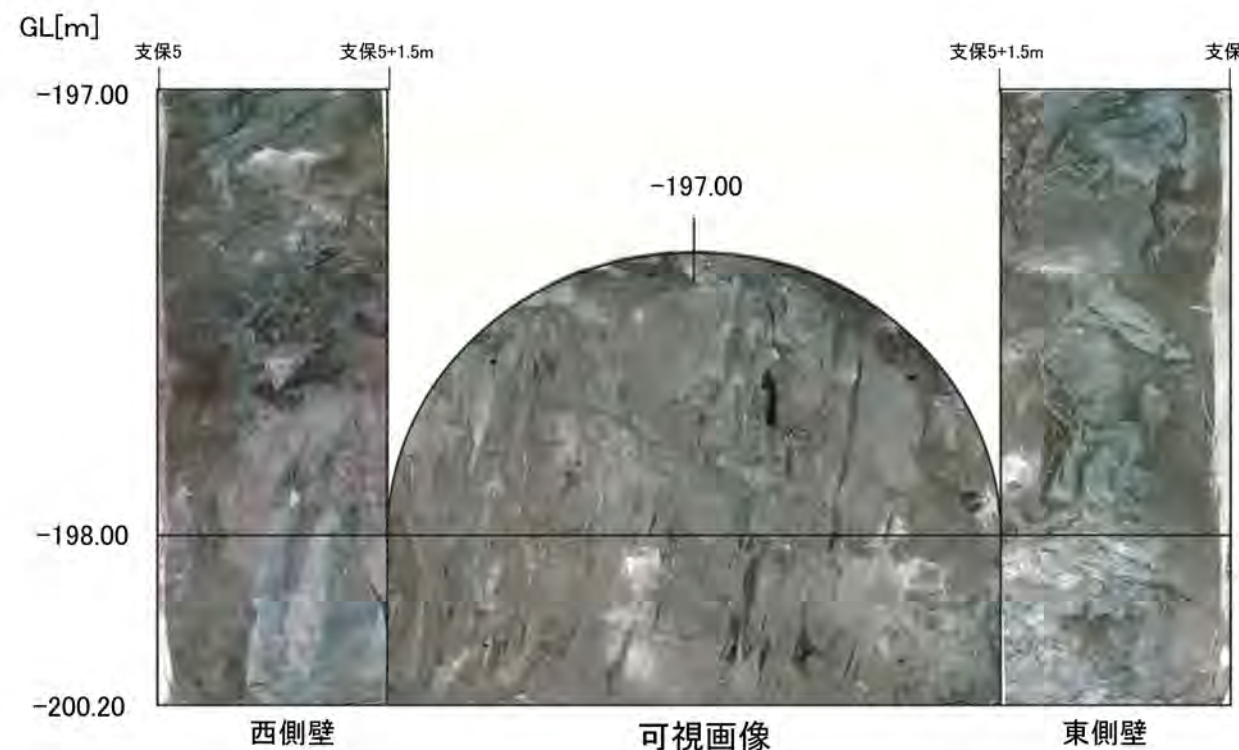
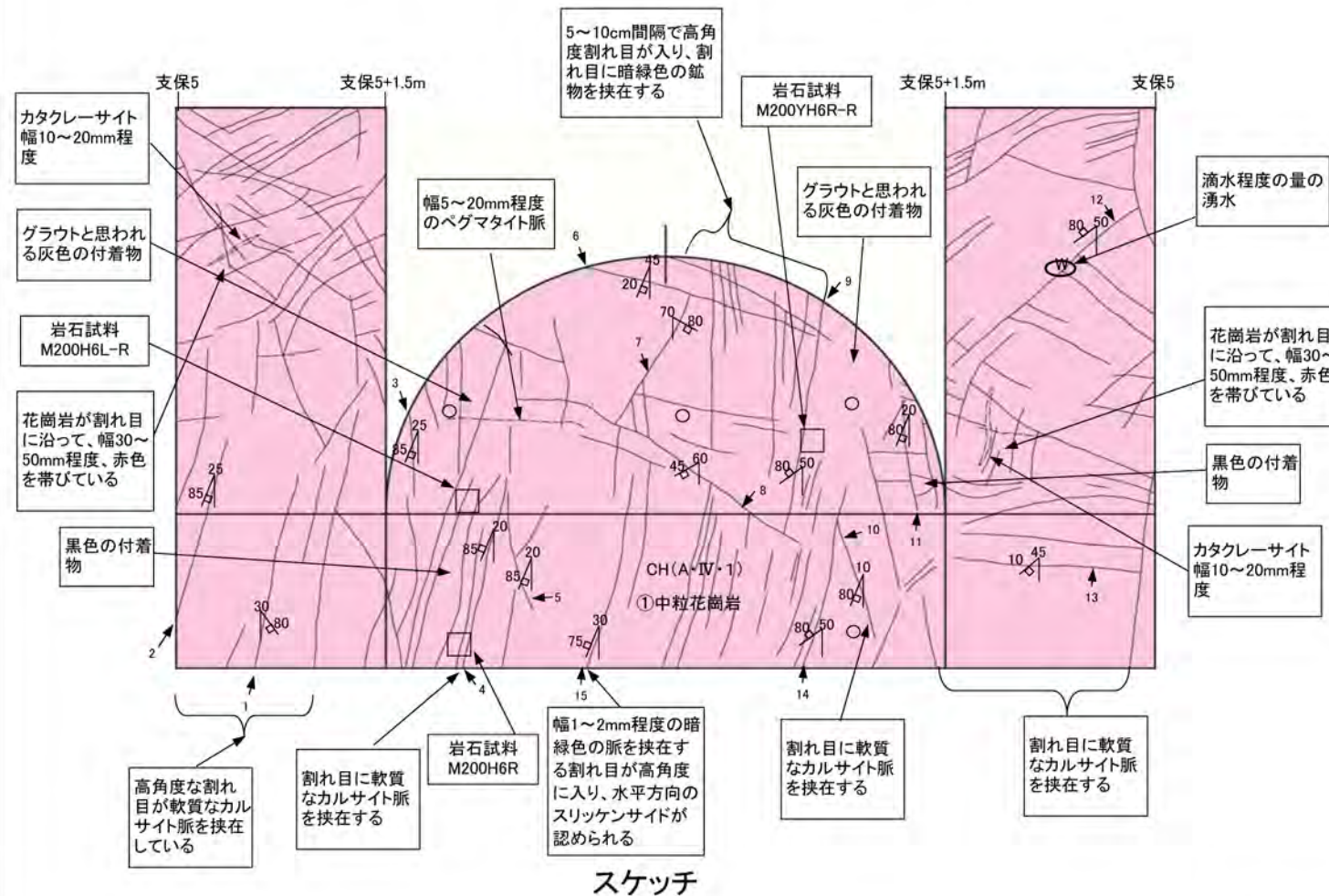
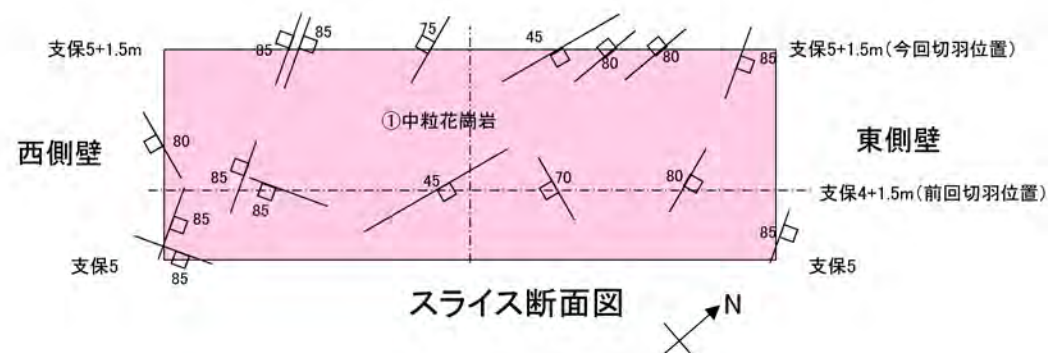
A2-請負-計測工(地質)-070802

シート番号	避難坑06	日時	平成19年8月2日 12:00~13:00	位置・深度	避難坑06 G.L. 197.0 m~G.L. 200.2 m	観察・撮影者	
-------	-------	----	--------------------------	-------	------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 脈 割れ目の走向傾斜



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -197m~198.5m G.L. -198.5m~200.2m	CH CH
岩相	①中粒花崗岩 (淡桃色) ②カタクレーサイト	RMR値	G.L. -197m~198.5m G.L. -198.5m~200.2m	64 64
風化	α	岩石試料番号	M200H6R(花崗岩), M200H6L-R, M200H6R-R	
変質	2~3	採水試料番号	無	
湧水	最大滴水程度	化石	無	

特記事項

当箇所は予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~5mm程度の中粒花崗岩とカタクレーサイトである。西側壁と東側壁に見られるカタクレーサイト周辺の花崗岩は割れ目に沿って幅30~50mm程度が赤色を帯びていることから、変質の程度は2~3と評価した。割れ目はNW-SE方向とE-W方向の高角度の割れ目と切羽上部から先端にかけて20~30cm間隔でNE傾斜の低角度な割れ目が認められた。NW-SE方向の割れ目は暗緑色の鉱物を挟在し、切羽中央付近では多いところで5~10cm間隔で入り水平方向のスリッケンサイドが認められる。切羽左側から西側壁や東側壁の高角度な割れ目1, 2や割れ目4、割れ目10などは軟質なカルサイト脈を挟在している。また切羽中央には45°東傾斜の割れ目8が認められ、この割れ目で割れ目7などが終息している。

前回の観察に引き続き、スプリングラインより上の高さに幅最大20mm程度のペグマタイトが認められた。西側壁と東側壁には最大幅20mm程度のカタクレーサイトが認められた。前回の観察と比較して、カタクレーサイトの切羽への露出は小さくなっている。湧水は東側壁の先端付近の割れ目から滴水程度の量が認められた。岩相区分は、全体に割れ目が多く、多いところでは5~10cm間隔で入り、ハンマーの打撃で火花が散る程度の硬さであることからCH(A・IV・1)と評価した。